

第5回 小金井市産業振興プラン策定委員会 議事録

日時 令和7年12月22日（月）午後2時30分～午後4時30分

場所 市民会館・萌え木ホール（商工会館3階）A会議室

出席委員 11名

委員長 中庭光彦 委員

副委員長 西川亮 委員

委員 佐藤剛 委員

中根里美 委員

橋本佳菜美 委員

山口清 委員

鴨下敏明 委員

渡邊恭秀 委員

今井哲一郎 委員

益田智史 委員

渡邊雅毅 委員

事務局 経済課長

島田泰吉

経済課産業振興係長

田中達也

経済課産業振興係主任

木村伊志

株式会社国際開発コンサルタンツ

氏原茂将

傍聴者 1人

議事

1. 開会（午後 2 時 30 分）

2. 議題

小金井市産業振興プラン（素案）について

事務局が小金井市産業振興プラン（素案）の説明を行った。

- 中庭委員長 これまでの議論として、市内に稼げる事業者を増やすということを確認したということを共有しておきたい。その上で、素案 P10 の末尾には「目的地が生まれ、市民が消費し、賑わいづくりに参画するようになるなかで、市内事業者が潤い、行政や中間支援団体による投資が還元され、徐々に仕組み化していくという循環を生み出していきます。」とあるように、人が集まる仕組みをつくり、お金を稼ぐ仕組みに展開させていくプランとして作っていると理解している。
- 今日の委員会の前半では、P12～22 に委員会で意見交換してきてもらった内容が位置づけられているとのことなので、この内容で適切か確認していきたい。後半では別の話に移りたい。このようなプランの肝心なところは実行するかどうかである。そのためには事業者をはじめ、市民や行政が協力する体制を確立することが大切であり、プランにおいては「第 5 章 プランの実行に向けて」において各主体の役割が適切に示されている必要があるため、後半に議論したい。
- 前半はフリーディスカッションで進めたい。どなたでも構わないので意見いただきたい。
- 佐藤委員 全般的な意見になるが、どこが今回の改定の目玉になるのか。やや弱いように感じている。
- 事務局 変わった点は、現在のプランは賑わいづくりに重きを置いていたが、今回のプランは賑わいづくりの持続性を担保する地域産業基盤の形成にも取り組もうとしているところである。その上で施策についても、現在のプランは既存事業と参考事業を掲載していたが、今回のプランは既存事業と検討していく事業となっており、実際に取り組む事業を位置づけている点が目玉になると考える。
- 中庭委員長 賑わいづくりだけでは事業者は儲からない。事業者の稼ぎに至るところまでプランでフォローしようとしている点は今回のプランの新しいところと言っていいと思う。ただし、稼ぎに至るには事業者のがんばりも必要と思われる。
- 渡邊（恭）委員 方針③の既存事業は KO-TO のみだが、それ以外の取組も位置づける必要がある。ベンチャーポートもあれば科学の祭典や大学連携なども行っているので、取組の全容を示してもらいたい。

今井委員	創業・起業の場として KO-TO が強調されているが、商工会等でも実施している他の取組もあるので記載してもらいたい。
中庭委員長	既存の創業・起業の取組の実績はいかがなものか。
今井委員	創業・起業の融資が大事だと思う。創業・起業のノウハウも大事だが、やはりお金を貸してもらえることが大事だと思うので、銀行との連携は書き込んでもらいたい。多摩信用金庫は創業・起業の相談には乗ってもらえるが、創業・起業に力を入れていくのであれば行政としても金融機関と連携していった方がよいと考える。
中庭委員長	この意見は大事だと思う。いまの意見のような踏み込んだ内容を触れてほしい。
事務局	承知した。反映する方向で表現を検討する。
今井委員	方針⑥に小規模事業者の経営支援が位置づけられているが、小金井市は他市に比べると融資の負担率が低い。比率を上げていくとは書けないかもしれないが、検討する旨は書いてもらいたい。
中庭委員長	この点について行政としてはいかがか。
事務局	他市よりも負担率が低いという認識ではないが、検討する。
鴨下委員	商工会にも日本政策金融公庫を経由した融資制度はある。他市では利息分を補填するケースもあるが、小金井市は補填してくれない。経済課経由の制度融資もあるから問題ないと市は認識していると思うが、商工会の融資制度について利息分の補填をしてもらえると、事業者としては選択肢が増えてよいのではないか。
中庭委員長	いずれも計画への反映をお願いしたい。検討する旨を書くのであれば、結論を出す目安も記載してほしい。
事務局	これまでは低金利で推移していたが、現在は金利が上がってきている状況である。市の小口融資あっせん制度は、政策金利が上がっているなかでも事業者の負担利率は上げていない。商工会の融資制度に対しては利息の補填はしていないが、市の制度で利率を抑えているということはある。
鴨下委員	市の小口融資のあっせんは金融機関だが、商工会の制度は政策金融公庫である。後者の方が最後のセーフティネットとして機能すると考える。
中庭委員長	融資メニューの全容を整理した上で、何をどのように検討するのかを分かりやすくプランに記載するよう検討してもらいたい。
事務局	承知した。
鴨下委員	商工会としては廃業する事業者を減らしていきたい。融資を利用せずに廃業してしまう事業者もいるので、制度を利用するに至る動線を整え、利用してもらえるようになるとうい。
中庭委員長	融資利用を勧めるというよりも、必要な事業者が制度にアクセスできるようにすることが現実的と考える。

渡邊（雅）委員	公園を物販イベントで利用したことはあるが、単発のイベントにとどまっている。継続的に利用することは可能か。
事務局	公園担当課に聞いてみないと分からないが、公園の利活用について市として取り組んでいるので、仕組み化の可能性について模索したい。
中庭委員長	オープンスペースの活用プロセスを仕組み化することを、継続利用とともに明記する必要がある。
事務局	方針②の今後実施を検討する事業に位置づけることを検討する。
中庭委員長	もう少し踏み込めるとよいが、まずは検討してもらいたい。
山口委員	自分が提案した若者とのマッチングやアクティブシニアの取組を取り込んでもらえているが、今後 10 年間を見据えると大切なテーマだと思う。ただ、これをどのように実行に移していくのか。推進体制がなくては絵に描いた餅になってしまう。スケジュールや進め方も含めて検討していく必要があると思う。
事務局	実効性のあるものにしていきたい。「第 5 章 プランの実行に向けて」に各主体の役割を明確にするほか、方針⑥に位置づけている意見交換の場を有効に活用し、推進していければと考えている。
山口委員	意見交換の場は大事だが、運営方法が見えない。行政が枠組みをつくって公募するのか、中間支援団体が担うのか、その体制構築が分からない。
中庭委員長	このプランに抜けているのは「誰が何のリーダーになるのかが分からない」ということである。後半の「第 5 章 プランの実行に向けて」の議論のなかで、いまの意見は引き継いで意見交換したい。
益田委員	方針①～⑥の取組の主体は行政と認識しているが、それであれば方針③の「出会う」という表現は弱く、「探し」ぐらいの意気込みで書いてもらいたい。方針④も同様に「つなげる」ではなく「育てる」であるべきと考える。 また、方針①の「商店街等の地域イベントに対する支援」は期待するところだが、その取組内容のうち「参画したい市民と主催団体をつなぐ方策を検討する」という表現は具体的に何かが分からない。
事務局	スキル等を有する市民とのマッチングによる事務手続きの補助等を想定しているため、具体的な表現に変更する。
益田委員	こきんちゃんを用いたプロモーションはほんとうにできるのか。レギュレーションが厳しいはずなので、「市として働きかける」など、利活用に向けた段取りにとどめた方がよいと考える。 方針②の提案型事業がおもしろいと思う。素案では「イメージ」として書かれているが、これはプランには掲載しないのか。
中庭委員長	事務局はこの点をどのように考えているのか。
事務局	あまり具体的に書いてしまうと柔軟性がなくなるので、掲載しない方がよいのかと考えている。

中庭委員長	行政として慎重になることは理解できるが、提案型事業の内容を例示するぐらいはよいのではないか。みなさんとしてはいかがか。
益田委員	評価の考え方が明示されている点がよいと思っている。
中庭委員長	事務局としては記載したくないということなのか。
事務局	記載すべきではないということではない。
中庭委員長	それでは掲載してもらいたい。
事務局	承知した。
益田委員	方針④の「スキルを有する市民と事業者のマッチング方策の検討」について、取組内容で触れている「イベント実施にかかる運営等のスキル・ノウハウ提供」をより明確に盛り込めるとよい。
事務局	承知した。
益田委員	駐輪場に関する取組はどこに位置づけられているのか。
事務局	方針⑤にある。
益田委員	承知した。駐輪場にかかわらず、行政が民地を寄付された際に商店会で管理することができるような仕組みを考えられるのではないか。管理する商店会への優遇措置も含めて検討できるとよい。 また、新規出店したい人がいても駅前テナントぐらいいし空いていない状況のなかで、空きテナントとのマッチングを図っていくということが盛り込めていない。残されたテナントを残していくための方策を考えるべきだと思う。そのためにはテナント所有者への優遇措置が必要と思うが、いかがか。
中庭委員長	ハードルが高い論点ではある。
事務局	方針②の「商店会の活性化につながる取組の検証」に含めることができるか検討したい。
佐藤委員	この事業は実験的に取り組んで検証をするということなので、「商店街の活性化につながる取組およびその検証」というタイトルが望ましいと考える。
事務局	そのような意見も含めて検討する。
今井委員	写真はもっと賑やかにしてもらいたい。ここで推薦してもいいのではないか。
事務局	ぜひお願いしたい。
渡邊（恭）委員	小金井市は市民まつりを中止しているが、再開しないのか。行政による支援が必要なのではないか。
事務局	他部署で市民まつりの復活について検討しているところである。
渡邊（恭）委員	他部署で検討していることでも、産業振興プランとして後押しするということはないのか。
鴨下委員	市民まつりは自分もぜひやってもらいたいと思っている。商工会としても関わり方について再考の余地があると思っている。商工会だけでなく、市

	民参画を募りながら、市立公園なども会場として利用しながら盛り上げていけたらと思っている。ぜひ市として旗振りしてもらいたい。
今井委員	産業振興プランとして市民まつりを支援することには違和感がある。市民まつりは産業分野にかぎらず、様々な分野の活動が集まる。産業振興プランはやはり産業の応援をするべきものではないか。市民まつりは市民全体にかかわることなので総合計画において支援すればよいのではないか。
鴨下委員	以前の産業振興プランには市民まつりが位置づけられていたように記憶している。賑わい創出という点では市民まつりも賑わいであり、何らかの活動が生まれてくると期待される。
中庭委員長	これについては書いてはいけないのか。市民と協働して開催することを検討するとは言えないのか。
事務局	市民まつりが再開される際には商工会はじめ産業分野の主体も関わっていくといったことを書くことできるか、市民まつりの取り扱いについて検討してみたい。
中庭委員長	市民まつりの触れ方は検討してもらいたい。
鴨下委員	会場の都合があるのであれば、市有地を使えばよいと思う。新市庁舎の駐車場なども候補なのかもしれないが、見通しが立ちにくいところか。いずれにせよ会場が決まれば盛り上がっていくと思う。ぜひ計画書で触れてもらいたい。
益田委員	市民まつりが他部署の担当する事業であれば、やはり産業振興プランに掲載することには違和感を覚える。ただし、そこに産業振興の可能性があるならば商工業関係者も関わると思うので、そのような連携を「商業と福祉、教育、農業、地域コミュニティの連携促進」に書いてもよいのではないか。
中庭委員長	素案P24にある体制イメージには7つの主体が円周上に配置されている。これはそれぞれの主体がネットワークングするようなイメージを持っているのだと思うが、どの主体がリーダーシップを取るのか。 また、市民の役割として「イベントに参加する」といった風にならされているが、そのような記述はどのように感じるのか。
橋本委員	応援することを強要されているように感じる人もいると思う。立地のよさをもって住んでいる人もいると思うので、応援することを前提してはいけないと思う。イベントに参加するといっても、仕事の関係で参加できない人もいる。罪悪感のような思いを持つ人もいるのではないか。 興味がある人が「興味がある」と言いやすい状況をつくってもらえるとよい。また、参画のプロセスも分からないので、そのアプローチが示してあるとよい。
中根委員	「魅力づくりを応援する立場」という位置づけも疑問である。魅力があれば応援するし、そうでなければ応援しない。

今井委員	市民については役割として書くのではなく、そのようにしてほしいとお願いするべきだと思う。
中庭委員長	忙しく日々過ごしているなかで、市民が参画してもらうことを前提としてはいけないのだと思う。
橋本委員	市民が小金井市の産業振興の主体となるということも不明瞭である。
中庭委員長	記述が大雑把なことは問題だが、市民の主体性は、消費者として声を届けることなのだと理解している。また、今後、高齢化が進むなかで助け合いが必要になってくると、商店街が関わりとより良い地域コミュニティになるのだと思う。助け合いの関係性をどのようにつくるのか。その際には事業者が稼いでいないといけないので、地元の消費者として支え育てていくことが大事になるのだと思う。もちろん魅力や質に応じると思うが、そういった姿勢は必要なのだと思う。
佐藤委員	イベントに参加するということには引かなかった。既存の機会に乗っかるような受動的な姿勢ではなく、持続的なまちづくりに主体的に参画するような書きぶりが望ましいと考える。
山口委員	市民以外の主体は小金井市と経済的に関りがあるが、市民は消費者の立場である。市民活動に注力しないと生活できないわけではないから、主体性の幅があることを意識して書いた方がよいと思う。市民と市民団体・地域団体、大学等との書き分けがないということも気になるところである。後者への期待もあると思うので追記してもらいたい。ただ、市民団体・地域団体、大学等も地域経済のステークスホルダーではないので、参画は必須ではない。
中庭委員長	市民は不必要ではないかと考えるが、検討してもらいたい。
事務局	承知した。
中庭委員長	誰がリーダーシップを取るべきなのか。
渡邊（恭）委員	行政ではないか。
中庭委員長	行政がリーダーシップを取るということを明記した方がよいと考えるがいかがか。
佐藤委員	第5章は「行政の役割および各主体に期待される役割」という表題ではないか。
中庭委員長	そのような理解がよいと思う。行政がリーダーシップを取らないと推進していかないと思うので、そのように明記し、推進してってもらいたい。
事務局	第5章冒頭に行政の役割を位置づけた上で、他の主体の役割について「期待すること」として整理する。
中庭委員長	山口委員から提起された意見になるが、行政の役割として、市民のニーズを把握するために市民との意見交換の機会をつくることを位置づけてもらいたい。

あと、「評価の考え方」の指標の適切さは今後の進捗のなかで明らかになっていくところもあるので、意見交換の場で話し合いながら評価し、指標の見直しも行ってもらいたい。

渡邊（雅）委員 現在のプラン策定後の評価は行っているのか。
事務局 意見交換の場は何度か開催したようだが、関係者が集まって評価は行っていない。今回のプランの下では短期間で評価・改善・検討のサイクルも行っていききたい。

渡邊（雅）委員 1年後ぐらいに具体的な事業を立ち上げられるようにしないと、プランが画餅になってしまう。

事務局 意見交換会の場は設けさせてもらいたい。

中庭委員長 大きな指標を立てて評価を行っても、プランを推進するなかで指標が有効でなくなる可能性もある。それよりも毎年定性的な評価でよいので話し合い、改善方策を考え、次年度に実践するということをやってもらいたい。

事務局 指標を絶対的なものとして運用するつもりはない。柔軟に話し合いながらやってもらいたい。

今井委員 商店会条例の見直しをすることを検討してもらいたい。また、以前に経済課が立ち上げた黄金井あきないクラブのようなグループをつくってもらった方が、評価・改善のサイクルも回しやすいのではないか。

事務局 方針⑥の意見交換の場に追記することを考える。

今井委員 行政の役割として記載する方がよい。

鴨下委員 このプランをみると、体制イメージの真ん中には市が位置づけられることが望ましいと思う。

事務局 主体として鉄道事業者を位置づけることにご意見を伺いたい。JR 中央線高架下の利活用や駅周辺との連携など期待するところはないか。

益田委員 鉄道事業者を位置づけるのであれば、活性化協議会を入れてはどうか。

事務局 確かに鉄道事業者が参画している会議体なのでよいと思う。

中庭委員長 鉄道事業者も主体に入れることを検討してもらいたい。

3. その他

事務局より次回の委員会の開催予定を伝えた。

日時：3月12日（木）午後2時30分～午後4時30分

4. 閉会（午後4時30分）